



話のたまご

NEWS LETTER

話のたまご 検索

INDEX ① ガスには「におい」を付けている ② ガス臭い時は? 地震の時は? ③ 二次災害などを防ぐ取り組み ④ ガス機器や設備の安心・安全

こんな時にはどうすればいい?

暮らしに欠かせない ガスの安心・安全のこと 知っていますか?

とても身近で、毎日の生活には欠かせない都市ガス。でも、知っているようで知らないこともたくさんあるでしょう。そこで今回は、日々の暮らしから地震などの非常時まで「ガスの安心・安全」をテーマに、暮らしに役立つガスの「?」にお答えします。

そもそもガスって どんなものなの?

家庭で使うガスは大きく分けて、都市ガスとLPガス(プロパンガス)の2種類があります。共に元々の原料は無色・無臭ですが、ガス漏れの際にすぐ気づくように、付臭剤で「におい」を付けて供給しています。

東京ガスがお届けしている都市ガスの主原料はメタンを主成分とする天然ガスで、硫黄酸化物(SO_x)などの有害物を含まず、燃やした時に出る二酸化炭素(CO₂)の発生量も石油や石炭に比べて2~4割も少ない、環境にやさしいエネルギーです。

都市ガスは空気より軽く、プロパンガスは空気より重い性質を持っています。万が一ガスが漏れた時、都市ガスは天井付近にたまり、プロパンガスは床付近にたまります。警報器を設置する位置や対処方法が異なりますから、覚えておきましょう。



	都市ガス	LPガス(プロパンガス)
原料	メタンを主成分とする天然ガス。海外から輸入する液化天然ガス(LNG)が大半を占める。	プロパンやブタンを主成分とする液化石油ガス(LPG)。大半を海外から輸入している。
特徴	マイナス162℃まで冷やすと液体になり、体積が600分の1ほどに小さくなる。	マイナス42℃まで冷やすと液体になり、体積が250分の1ほどに小さくなる。
比重	空気より軽い	空気より重い

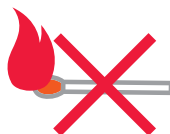


もしもの時に! その1 ガス臭いと感じた時には どうすればいいの?

ガス漏れは、火災や爆発の恐れがあり危険です。普段の暮らしの中で、もしもガス臭いと感じたら…。そんな時は、火気は厳禁です。そして、あわてずに次の行動をとってください。①窓や戸を大きく開けてください ②すべてのガス機器のスイッチを止め、ガス栓も閉めてください ③ガスメーターのガス栓も閉めてください ④東京ガスの、ガス漏れ通報専用電話(0570-002299 IP電話などナビダイヤルをご使用になれない場合は 03-6735-8899)に電話してください。また、右に挙げた事項にも注意して行動しましょう。電気器具のスイッチを入れたり、換気扇を回すのもとても危険です。

そして、もし地震が起こったら。その場合は、まず自分の身を守ってください。揺れがおさまってから、使用していたガス機器の火を消して、ガス機器の状況などに異常がないか確認してください。震度5程度以上の大きな地震では、ガスは自動で止まります。とにかく落ち着いて対応することが大切です。

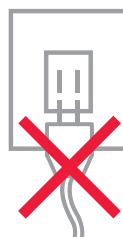
絶対に火をつけない



換気扇や照明・電気器具の
スイッチの入/切をしない



電源プラグの
抜き差しをしない



すぐにガスの
使用を中止する

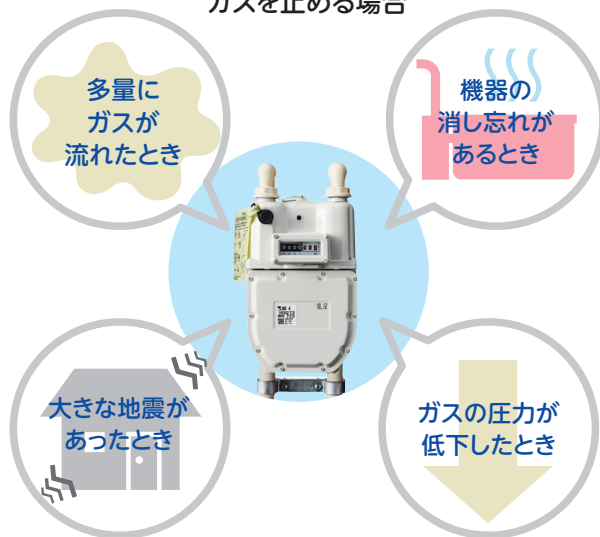


もしもの時に! その2 ガスメーター (マイコンメーター) は 安心のためのマルチプレーヤー!

上の文章にも出てきたガスメーターですが、いざという時になってはじめて「そういえば、ウチのガスメーターはどこにある?」と、あわててしまう方も多いようです。しっかりと場所を確認しておきましょう。まず、一戸建ての場合は、屋外・玄関近くの外壁に設置してあることがほとんどです。また、マンション・アパートなどの集合住宅では、玄関脇や共用廊下のメーターボックスの中にあたり、外に複数並べて設置してあることが多くなっています。

ガスメーター(マイコンメーター)は、24時間ガスの流れを監視。微小なガス漏れの疑いがあると判定した場合に赤ランプの点滅でお知らせするほか、右に挙げた場合には、赤ランプの点滅とともに、自動的にガスを止めます。安心・安全のためのマルチプレーヤーと言えるかもしれません。

マイコンメーターが自動的に
ガスを止める場合





もしもの時に! その3 供給指令センターや ガスライト24が見守る安全

東京ガスは首都圏の1都6県のお客さまに都市ガスをお届けしています。その製造・供給状況を24時間365日体制で監視・コントロールしているのが「供給指令センター」です。このセンターが、地震発生などの緊急時にも防災活動の中核となります。地震発生時には被害程度の分析や、遠隔操作によるガスの供給停止など、二次災害防止のためにも初動措置を実施する役割を担い、1年間に約100回もの初動措置訓練を行っています。安心・安全のためには欠かせないものです。

また、いつでもガス漏れに対応できるように設置された部隊が「ガスライト24」です。ガス漏れなどによる事故を未然に防ぐために、24時間365日ガスの安全を見守り、お客さまから通報があった場合は休日・夜間を問わずに出動して迅速に対応します。



供給指令センター

製造・供給設備を遠隔モニタリング

24時間
365日
出動!



ガスライト24出動風景

もしもの時に! その4 ブロック単位でガス供給を遮断し 供給停止エリアを最小限に

もし大地震が発生した場合、火災などの二次災害につながる危険性もあります。そこで東京ガスでは、ガスの供給を停止するなどの緊急対策によって、二次災害の未然防止に努めています。それとともに、被害が少ない地域のお客さまにはご不便がないように、できるだけガスの供給を続けることも大切。ガスの供給をストップする地域を最小限に抑えるため、たくさんのブロックに分割して、被害の大きいブロックだけガスの供給を停止します。

ご家庭やオフィスに届く低圧ガスの供給停止をブロック単位でコントロールするのが、超高密度リアルタイム地震防災システム「SUPREME（シュープリーム）」。約1km²に1基の高密度で約4,000基設置されたSIセンサー（地震計）を利用する、世界でも例を見ない地震防災システムです。また、同じシステムで最適な復旧方法も自動的に判断し、速やかに供給が再開できるようにしています。

ブロック化のイメージ





ご家庭でのガスの安全対策 その1 ガス機器をご使用の際は しっかりと換気を!



ガス機器を使う際に大切なのは、新鮮な空気です。キッチンでガスコンロや小型湯沸器を使う時には、必ず換気扇を回すか、窓を開けて換気を行きましょう。ガスストーブやガスファンヒーターを使う時には、1時間に1~2回、1~2分程度の換気をしてください。

ご家庭でご使用のガス機器などには、いろいろな安全装置が付いています。2008年4月以降に製造販売されたガスコンロは「Siセンサーコンロ」と言って、右に挙げたような3つの安全機能が標準搭載されています。また、ガスファンヒーターには「転倒時ガス遮断装置」を搭載し、機器が転倒した時にはガスを止めて運転を停止するなど、万一の場合の安全も確保しています。

Siセンサーコンロ3つの安全機能

- 1 安心センサー (調理油過熱防止装置)**
鍋底の温度を測定して調理油の発火を防ぐ
- 2 立ち消え安全装置**
不意に火が消えた場合に自動でガスを止める
- 3 コンロ・グリル消し忘れ消火機能**
火を消し忘れても一定時間後に自動消火する



ご家庭でのガスの安全対策 その2 適材適所の警報器で さらにたしかな安心を!

音で火災の発生を知らせてくれる、住宅用火災警報器。消防法の改正によって、2006年6月から設置が義務づけられました。義務化から10年が経ち、電池切れや故障などの場合もあります。正しく作動するかどうか、しっかり点検しておきましょう。

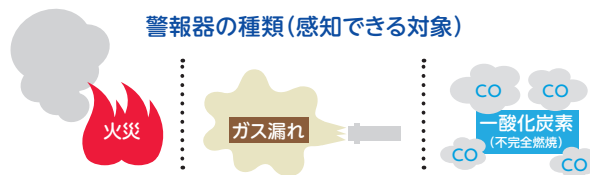
また、火災は家のどこで発生するかわかりません。消防法で設置が義務づけられている寝室はもちろん、安全のために階段やキッチン、各部屋への設置をおすすめします。警報器にはさまざまなタイプがあり、感知できる内容が異なります。ガス漏れや不完全燃焼による一酸化炭素(CO)を感知できるものもありますから、用途に合わせて最適なタイプを設置しましょう。

おすすめの設置場所と警報器のタイプ

CO=不完全燃焼による一酸化炭素



警報器の種類(感知できる対象)



非常時の対応に役立つ携帯サイトや、スマートフォンのアプリもあります。ぜひご活用ください。

東京ガス
携帯サイト



<http://mobile.tokyo-gas.co.jp/>

ガスメーターの復帰方法/ガスメーターの設置場所/ガス臭いとき/地震のとき/停電のとき/ガス供給停止区域の確認

スマート
フォン
アプリ



緊急時、インターネットにつながらない時でもガスメーターの復帰操作を確認できるアプリです。Android版・iPhone版それぞれ無料でダウンロードできます。